



武藤課長とヤニ一人身取引対策部長



クレットラカーンシェルターにて（左からシェルター副所長、大西所長、武藤課長）

本プロジェクトはタイ事務所主管で、本部では公共政策部のジェンダー平等推進課が担当されています。本部の方とは日ごろからタイ事務所を通じてご報告するなどして密にご連絡していますが、口頭で説明するよりは実際に現場を見ていただくのが一番と思っておりました。この度6月26-29日、ジェンダー平等推進課の武藤課長と東南アジア第五課の作道さんがカンボジアご出張の帰途バンコクに立ち寄られ、プロジェクトについてご説明する機会を得、またプロジェクトの現場も見ていただくことができました。またタイ事務所では、今回の武藤課長のご来訪に合わせて、情報発信のために、タイ在住の日本メディアを招いての勉強会を企画されましたので私たちも参加しました。

武藤課長には、週末を挟んでの意見交換の後、6月29日には実際に人身取引被害者保護の現場にも足を運んでいただきました。まず朝クレットラカーンシェルターに行き、シェルターの見学及び活動内容を視察されました。その後はJICA事務所に戻りメディア勉強会に出られました。メディア勉強会には、10社から14名の方が参加され、まず、武藤課長と竹内所員からタイを中心としたメコン地域における人身取引及びその対策の現状のご紹介がありました。その後、織田チーフアドバイザーよりプロジェク

トの概要を説明しました。参加されたメディア関係者からは、人身取引被害者の数に関するご質問が多くありましたが、プロジェクトが把握しているデータは、BATWC管轄のシェルターの入居者数、本国送還・帰還支援をした人数に限られており、これらの数字だけでは被害状況の深刻さを理解して頂くのは難しいと思いました。

武藤課長は、メディア勉強会の後BATWCに来て下さり、ヤニ一部長を含むBATWCスタッフと意見交換されました。BATWCのスタッフには、前々から東京の本部から課長さんがお見えになることを伝えていたので、皆さんお忙しい中時間を作って対応して下さい、貴重な意見交換の機会となりました。また、武藤課長にはフォーカルポイントとのウィークリーミーティングの様子も見ていただきました。プロジェクトはまだどのように活動を進めるという枠組みを相談している段階ですが、早い時期に本部の方に見ていただけたことは今後の情報共有に役立つに違いないと思います。